

■（３６）社会の先生なら「？？？」でしょう

「岩手県知事選挙ポスター掲示場」が岩手県内各地にたてられている。赤地に白抜きの
大文字で「４月１０日 投票日」。２カ月前の日付だ。６人分の枠にはポスターはない。そ
の横の県議選の掲示場も同じ。さらに、津波に襲われたエリアには掲示場はみかけない。

これも震災の影響だ。選挙が始まる直前に震災に遭った。選挙どころではない、と被災
地の選挙が延期された。有権者の数を集計すると、震災前と今では５２８４人減った。だ
が、人口１万５千人だった大槌町だけで、公式な死者・行方不明者は未成年も含めて約１
７００人。だが、これとは別に、５千人と連絡がついていない。ということは…。社会の
先生ならば「おかしい」と言うかもしれない。知事も県議も４年間の任期を超えて仕事を
続けている。大槌町は町長が津波で犠牲になったまま、新しい町のトップを選べない状況
が今も続いている。定年になった養護教諭が被災地の学校に残るのは事情が異なる。

被災地でも待ったなしは高校３年生の来春の進路指導。岩手では進路指導の先生たちの
勉強会が始まった。就職氷河期に加えて震災。より多くの人の手助けが必要な学年だ（山）